

特別講演 2

「冠動脈疾患の 2 次予防戦略」

順天堂大学 循環器内科教授

代田 浩之 先生

冠動脈血行再建術の進歩により、冠動脈疾患の治療成績は飛躍的に向上した。たとえば、急性心筋梗塞の院内死亡率は 20～30%といわれた時代から 5%を切る時代になっている。急性心筋梗塞だけではない。虚血性心不全も含めてあらゆる病型の冠動脈疾患が初期治療によってその短期生命予後を改善している。冠動脈疾患の急性期治療法がほぼ確立した後で残された大きな問題の 1 つが 2 次予防である。この意味から冠動脈疾患の診療はここに大きなパラダイムシフトが起こりつつあるともいえる。欧米諸国では禁煙、食事療法、運動療法の多因子介入による冠動脈疾患の予防効果が証明され、さらに抗血小板薬、スタチン、RAS 系抑制薬を用いた多くの薬剤介入試験によって 1 次予防、2 次予防の有効性が示されてきた。わが国でもこの分野での臨床研究、臨床試験の成績が明らかになっている。この講演では我々の施設の臨床研究や介入試験の成績も紹介しながら、わが国の冠動脈疾患 2 次予防戦略の方向性を議論したい。